

審議会等の会議結果報告書

【担当課】文化財課（八ヶ岳総合博物館）

会議の名取委員委 員 称	博物館協議会 専門部会		
開 催 日 時	平成 25 年 1 月 17 日（木） 午後 6 時 00 分～午後 7 時 20 分		
開 催 場 所	八ヶ岳総合博物館 研究室		
出 席 者	沖野部会長 北沢副部会長 石森委員 岡本委員 小池委員 茅野委員 名取委員 両角委員 大谷係長博物館係長 柳川博物館係主査		
欠 席 者	浜委員 花里委員		
公開・非公開の別	(公開)・非公開	傍 聴 者 の 数	0 人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容（概要）		
沖野部会長	<p>1 開会（博物館係長）</p> <p>2 協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 資料は、前回に議論・作製した図を整理したものである。この資料をもとにして議論いただきたいと思う。この専門部会に諮問された、博物館協議会に、どういう形で答申していくかをまとめてみると、前回議論になった企画運営会議のようなものを設置して、この専門部会で議論してきた内容を、企画運営会議に渡して、細かいところは企画運営会議で決めていただく、という所で前回は終わっている。博物館協議会と茅野市教育委員会の関係や八ヶ岳総合博物館のこれからの運営・企画は新しく設置された企画・運営会議でまとめていくという方向性になる。前回は組織面の議論をしなかったが、博物館長が議長となり、企画運営会議を主催する。企画運営会議の構成員は、博物館の職員、専門の学芸員、科学教育センターに関わる教職員が入る必要があるだろう。また、市民との協働ということで、市民学芸員(仮称)や研究員(仮称)、また、外部の意見が必要だということで、外部の専門家、その背景には、小・中・高等学校の教職員で現職と元職も参加して、いろいろ意見を出してもらう。市民関係では、市民の会や友の会があれば、これらの団体を土台として、企画運営会議に参加してもらう。近くの大学の教職員または、県などの研究機関もあるので、このような機関の職員も含めて会議の構成を考えていきたい。企画・運営会議は、現職・元職の先生、市民、専門家の3つを中心に構成し、博物館の学芸員も交えて開催し、事業に就いては短期・中期・長期計画といったスケジュール表を作って、具体化していくことが、実際には必要となるだろう。今日はこの辺りのところを協議していただきたい。 <p>議論の対象は、すでに指摘した通り、展示・企画・運営である。展示については、これまでに様々なアイディアが出されている。収蔵庫について</p>		

	<p>は、事業スケジュールのどこに位置付けていくかということは、企画・運営会議で議論していただく。科学教育センターについては、基本計画の中にすでにハード的なものが記載されているので、これを具体化するためにはどうするか。実際には、博物館の本館と離さずにつながるよという意見も出ている。このような意見を取り入れながら、施設の計画を作っていく。それから、理科教育の支援ということが主体になってくるので、学校支援の方法や市民活動の支援が対象になる。理科教育支援は、展示・企画・運営とも関わってくる。これをつなぐ連絡会議が、企画・運営会議とは別に必要となるのではないか。それぞれ小・中・高等学校の現職・元職の教職員と科学教育センターをどうするかということについては、科学教育センター設立の背景にあると思うが、その関係についてはまだまとめられていない。市民学芸員をどう制度化していくかについて、今まで議論されてきたが、それもまとめていない。大学・研究機関についても諏訪東京理科大学で開催している色々な講習会も今まで報告されているが、博物館活動とどうつなげていくかということも、今までの議論の中でまとめていく必要がある。</p>
北沢副部会長	<p>連絡協議会の議論としては、早く八ヶ岳総合博物館に企画・運営会議的な組織を作って、今後の計画を立てることが必要である、ということが、議論の中心だった。この点を、答申では強く述べていく必要がある。中味については、すでに昨年の答申の中にあるので、それを生かしてほしいということになる。</p>
沖野部会長	<p>専門部会で審議している博物館協議会専門部会と博物館協議会との位置付けをどうしたら良いのか。</p> <p>前回の話だと、専門部会の答申は、博物館協議会に対して行うということだったようだが。そのあたりの位置付けを具体的に事務局から説明してもらいたい。</p>
大谷係長	<p>(資料説明)</p> <p>総合博物館長 → (諮問) 博物館協議会 → (諮問) 博物館協議会専門部会</p> <p>博物館協議会専門部会 (報告) → 博物館協議会 (答申) → 博物館長 (答申)</p> <p>博物館協議会とは別に管理規則 22 条に博物館専門委員を置くことあり、博物館の専門的な企画・運営を図るために委員を置くことができる。これを活用することによって運営会議のようなものが順調にできるのではないかと推測している。</p>
沖野部会長	<p>運営委員会の内容については、取り決めはないのか。</p>
大谷係長	<p>特にない。</p>
沖野部会長	<p>そこに、市民、外部の人を含めた委員会・協議会を設置して欲しいということが、答申の要になるのではと思う。</p>
大谷係長	<p>博物館協議会は、市民も参加する会議であると捉える事ができる。</p>
沖野部会長	<p>博物館協議会は、尖石縄文考古館・八ヶ岳総合博物館・守矢史料館 3 館の共通の課題について協議する会か。</p>
名取委員	<p>博物館協議会は、様々な分野の人が参加しているので、総合的な判断ということになるだろうが、具体的には企画・運営会議で行うということか。</p>
大谷係長	<p>専門委員をどこまで置くのかということが、議論になっていると思う。</p>

	<p>今までの議論のイメージだと大学・研究機関・小・中学校の教員といった専門家を、専門委員に任命するということが、市民を専門委員に任命してはいけないということではない。</p>
北沢副部長	<p>専門部会と博物館協議会とは、どのような関係になるのか。</p>
大谷係長	<p>専門部会は、博物館協議会の中にある。</p>
沖野部長	<p>建物の予算はどうなっているか。</p>
大谷係長	<p>建物の予算に、博物館協議会や専門部会でこのような建物は絶対に必要だという場合があるかと思うが、予算についての庁内協議をしていかなければならない。財政部局・企画部局との連携を図らなければならない。</p>
北沢副部長	<p>博物館協議会の中に専門部会があるという立場をとっていく、方向でよろしいか。その上で議論していかないとならない。</p>
沖野部長	<p>総合博物館と専門部会の関係は。</p>
大谷係長	<p>専門部会は博物館協議会の中に含まれているものだ。</p>
沖野部長	<p>他の2館にも、このような専門部会があるのか。</p>
大谷係長	<p>条例では別々にしろということではなく、専門部会を設けることができるとあるだけです。</p>
沖野部長	<p>今八ヶ岳総合博物館に必要なものは、専門委員を作り、ルーチン的に計画を立てていくことが必要だということだ。これまで、バラバラに意見を出してもらったが、専門委員の中でその内容を仕分けて、短期・中期・長期計画を立て、実行計画みたいなものを作る必要がある。今まで出されている意見を計画毎に分けて最終結論に盛り込みたい。例えば、建物でいくと、収蔵庫を最初に作るとか、科学教育センターを先に作るとか、計画の順序づけをする必要があると思う。</p>
石野委員	<p>昨年の専門部会で平成25年度に実行計画を立案するということがあったが。</p>
沖野部長	<p>その実行計画を立てるときに、短期・長期というように分類して提案した方が親切だと思う。そのようにすると、予算付けがしやすいと思う。</p>
沖野部長	<p>展示などのように、予算がなくてもできる事業もあると思うが。</p>
大谷係長	<p>平成23年度の答申の中で、やれるところからやっていくということだったので、出来る限り実行していきたい。</p>
沖野部長	<p>以前、展示について議論したが、早急にできることがあると思う。例えば、案内板に、学校で利用しやすいように、指導要領のどこの部分の展示かを明示したり、展示物の中の昆虫がどこへ行けば見られるかなど、奥行きのある展示の仕方はどんどん進めていってもらえればいいと思う。</p> <p>もっとも進めづらいのは、建物だと思うが、どこの部分を早くに作っていけば利用しやすいかを考える必要もある。そのスケジュールは、企画・運営会議の最初の仕事として議論すればいいのではないか。</p> <p>昨年度の答申とは違って、もう少し具体的に検討する項目を入れて書くということになると思う。</p>
名取委員	<p>何のために展示替えを行うのとか、柱として何が大きかを答申する方が、予算もつきやすいと思う。</p>
沖野部長	<p>単発の要求だけではなく、将来に続いていく説明があれば、予算請求がしやすくなるのではないか。あくまでも基本構想に則って、今までの反省に基づいてスケジュールを考えていけば、20年後にはきちんとしたもの</p>

北沢副部会長	<p>ができ上がっていくと思う。</p> <p>企画運営委員会で改めて議論していただくということではなく、専門部会で平成23年度から議論してきたデータや議論してきたことを踏まえて、企画運営員会を進めていただきたい。</p>
茅野委員	<p>中味としてははっきりしてきている。展示替えでは、実行計画の委員が、専門部会の資料から拾っていけば、展示替えについては位置付けができると思う。市民学芸員は、まずは大学の研究機関の方たちに核になってもらって、市民学芸員を募集してみればよいと思う。このようなことを、来年度の実行計画の中に具体的に作っていけばよい。26年度のことは、年間スケジュールを、25年度の企画運営委員会で計画すればよい。内容のことは、すでに話し合っているのだから、これを位置付けていけばできると思う。</p>
沖野部会長	<p>一番やってもらいたいのは、市民学芸員を制度化して募集するというところで、これは25年度に始めたらどうか。学芸員の処遇をどうするかはきちっと考えていかなければならない。</p>
名取委員	<p>企画運営会議はいくらでもできると思うが、これからは、条例・予算の関係になっていくので、教育委員会や、茅野市に対しての話になると思う。</p>
大谷係長	<p>市民学芸員・研究員制度は早急にできるのではないかと思われる。館長が、今回会議を欠席するにあたり、市民学芸員の名称について、市民研究員が良いかなと言っていた。出来たら、この話を会議に出して欲しいと言われた。</p>
沖野部会長	<p>名称は館長が決めてもいいことだ。中味は学芸員・研究員的なことであれば良いことだ。</p>
大谷係長	<p>飯田市の市民研究員はとてもハードルが高いので、飯田市の形態だと広めにくいと思う。もう少しハードルの低い形にしたいということも聞いている。</p>
沖野部会長	<p>それも、スケジュールによるもので、まず短期的には正規の研究員・学芸員を作る、その資格的な面を決める。長期的取り組みとして市民研究員、市民学芸員を作っていけばよいと思う。最初からハードルの高いものを作ると、全体が動かなくなる可能性がある。</p>
沖野部会長	<p>これまでの議論で欠落しているのは、「寺子屋ちの」といった、外に作る組織である。これについてはあまり議論していない。館長の発案だったが、館長がどのように考えているのか。この会議では、むしろ、学校との関係についての議論が中心だった。寺子屋については館長のアイデアを市民に投げかけてもらえればよいと思う。これは、中期計画になるのか。</p> <p>今後どうしたらよいかということだが、これまでの議事録で、抜けているところがあれば示してもらいたい。これまでの議論をとりあえずまとめた段階で、また、会議を開きたい</p>
北沢副部会長	<p>答申をするにあたり、今まで議論してきたことはこのような方向で、ついては、進めていくためには、まとめたような仕組みで進めてもらいたいといった、2段階・3段階で答申していくということで良いか。</p>
沖野部会長	<p>いつまでに答申をまとめていけばよいか。</p>
大谷係長	<p>諮問文にもあったが、7月から議論して約1年間ということだった。25年度の6月でも構わない。</p>

沖野部会長	展示替え、建物関係の計画を具体的に進めていかなければならないので、報告は早くしなければならぬのでは。
大谷係長	早いに越したことはない。博物館協議会にも報告をしなければならない。その時には、完全にまとまった形で出すのか、博物館協議会は年度末に行われるので、現在の中間報告的なことを報告し、結論はその次の協議会で報告するのかということもできる。ここまで、議論が進んできたので、ここで、部会長・副部会長と今後のまとめ方について、事務局との懇談を行うことも提案できる。
沖野部会長	6月まで協議を伸ばしても、結論は変わるわけではない。できれば、3月の博物館協議会に、素案でも良いので提出し、6月には企画・運営委員会ができるというスケジュールの方が良いと思う。
名取委員	博物館協議会で決まらなないと、企画運営委員会はできないのではないかと。年度末に提出できなくとも、25年度の早い段階で協議会を開催しないと、活動が早急に始まらない。
沖野部会長	2月中にまとめて、3月の博物館協議会に素案を提出できる方向で進めたい。できれば、6月までに企画・運営会議を作り上げて、展示替えも始めていくというスケジュールが良いと思う。
両角委員	9月27日の協議の時に「23年度答申科学教育振興について」資料1と専門部会で検討していただきたい事項という資料があったが、この項目に基づいて答申しないといけないような気がする。現在協議されている事項で科学教育センターの中で、23年度の答申で教員の研修や諏訪圏の科学教育センター的や、より高度な実験研究ができる実験施設ということから、遠ざかっているような気がする。小規模で済むような方向にまとまって来ているような気がする。
沖野部会長	設備を縮小するというよりは、本来基本計画に記載されている内容を目安にするような方向で、これを企画運営委員会で討議してもらって、これまでこの専門委員会で議論してきたことをどう入れ込むかかというところを決めてもらうことになると思う。
石森委員	博物館に科学実験ができるような場所があれば、大学は出前事業的なものは、工学部の先生たちができると思う。
沖野部会長	イベント的なことを博物館に入れるということはできるのではないかと。きっかけだけ作れば、大きな設備は必要ないのではないかと。
石森委員	現在北山小学校で行っているのは、小学校レベルでできることだ。
沖野部会長	信州大学の科学教室は、小学校の体育館を使ってやっている。体育館でも実験はできる。
両角委員	現在はアイパッドやタブレットを使う展示から始まって、外部へ出たの観察まで含めて使うような態勢は、予算がなくても早急にできるのではないかと。このようなところも強めに出した方が良いのではないかと。展示替えのメインになると思う。
沖野部会長	茅野市全域が博物館だという考え方が重要だ。
名取委員	タブレットのデータだと、茅野市の人でなくても、市外の人にも広がっていく可能性がある。
沖野部会長	以上で、まとめをする時間をいただいて、2月中に北沢副部会長と事務局と整理をし、できたとところで、博物館協議会に報告する前に専門部会を

小池委員	<p>開催し、まとめたいと思う。2月の終わりくらいになるか。</p> <p>部会長が言うように、できるところからやって行った方が良い。博物館協議会で受けないと始まっていけない。企画運営委員会は条例的に言えば、博物館専門委員になるのか。</p>
大谷係長	そのあたりは検討したい。
小池委員	企画運営委員会を実際始めるのは26年度からか。
大谷係長	今日の協議で出てきたので、何とも言えないが、市民研究員の実行については、3月までに模索して、4・5月ではじめていきたい。
沖野部会長	常に助け手を博物館で募集していけばよい。専門委員を上手く使っていけばよい。
北沢副部会長	尖石縄文考古館・守矢史料館・八ヶ岳総合博物館3館の博物館連絡協議会と、総合博物館の博物館協議会の関係はどうなっているのか。
沖野部会長	博物館連絡協議会と博物館協議会があるのか。
小池委員	博物館連絡協議会はない。
岡本委員	<p>企画運営委員会に参加した教職員について、私のような人が中心となって、下部組織としての検討委員会が必要になるのではないかと思う。スピード感のある対応を考えると、教育委員会を通じて、校長会で、この会議の進捗内容を伝えて、委員選出の心づもりができる状況をお膳立てしておいた方がよいと思う。そうでないと、計画を建てる人員確保が難しくなると思う。</p>
大谷係長	館長が諮問を受ければ、館が関係部署と調整することになると思う。
	その他、委員から特に質問、意見等はなく了承された
	～午後7時20分 終了～